

科目No.	共催講座UT115b	科目名	化学物質リスク評価(演習)2				副題	作業員暴露推算モデルを中心に			
連携機関名	花井リスク研究所	水準	上級	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	火曜日14:10~17:15 (2講義集中)	拠点 (開講機関)	東京・放送大学文京学習センター (東京知の市場・放送大学(協賛))
科目概要	労働安全衛生法の改正で作業場における化学物質のリスク評価が義務化された。暴露濃度の実測だけでなく数理モデルによる推算を組合せた評価が重要であり、それには人材を育成する必要がある。講義と教科書の勉強だけでは、野球を楽しむのにボールもバットもなくルールを学んで済ますことに近い。推算モデル等を実際を使って、ボールとバットを使いこなす力を身につける必要がある。いわゆる直接暴露(作業員・消費者暴露)に限定していくつかの推算モデルの演習とデモを行う。欧米で開発され無料公開されている数理モデルを自分のパソコンにダウンロードしての演習とインターネット上のシステムのデモで理解を深める。参加者は、自分のパソコンを無線でインターネットに接続できる環境を備えることが望ましい。										

	No.	講義	講義概要	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
はじめに	1	暴露評価の重要性	化学物質のリスク評価には暴露量の評価が欠かせないが、実際には暴露評価が看過されることが多い。まずその重要性を確認したい。リスクは基本的に未来の問題の判断だから、実測だけでなく、数理モデルを使った推算による見通しが不可欠である。測定と推算に付随する不確実性の考察に必要な統計処理の基本を解説する。	2016/10/4				
	2	なぜモデルか 統計処理						
作業員暴露	3	IH Mod (AIHA)	American Industrial Hygiene Association は、作業に伴う室内濃度を推算するアルゴリズムの教科書を出版してきた。そこで開発された完全拡散モデル・近接場/遠隔場モデル・乱流拡散モデル等をスプレッドシートで計算し、濃度の時間変化をグラフ表示するシステムを公開している。	2016/10/18	放送大学 文京学習センター	花井 荘輔	花井 荘輔	花井リスク研究所
	4							
	5	TRA (ECETOC) EMKG(BAuA)	REACHのために各種の暴露推算システムが開発され公開されている。初期評価用のTRAやEMKGの活用が奨励され説明会も開催されている。ここでは簡単に解説とデモをした後、TRA・EMKG等を比較検討したRiedmannら(2015)の論文を詳しく紹介する。	2016/11/1				
	6							
	7	Stoffenmanager (TNO等)	オランダのTNOを中心にいわゆるSSA(Structured Subjective Assessment)の推算システムが開発されている。具体的作業に関する測定値のデータベースと専門家の判断から導出したいくつかの観点のスコアと実測濃度とを結びつけて解析する。モデルはインターネット上で公開されている。	2016/11/15				
	8							
9	ART (TNO等)	上記のSSAモデルの別の形としてART(Advanced REACH Tool)が開発されている。Stoffenmanagerと同様に、いくつかのパラメータのスコアの組合せで数値化する。得られた濃度分布をベイズ解析の事前分布とし、実測値を組合せた事後分布で推算の精度を上げる点の特徴である。	2016/11/29					
10								
11	ChemSteer (US EPA)	米国のEPAは、TSCAの実施のために多くの暴露推算モデルを開発し公開している。1980年代の経験的モデルがある。ChemSTEERは、作業員の暴露量と環境への排出量を推算するためのシステムであり、OSHAその他で開発された多くの推算モデルが搭載されている。	2016/12/13					
12								
消費者暴露	13	ConsExpo (RIVM) その他	化学物質を使用する消費者の暴露評価には、多種多様でバラツキの多い使用状況を推定しなければならない。オランダのRIVMは1990年代から推算ソフトを開発し、使用状況データとともに公開してきた。欧州の業界団体では、業種に特化したソフトを開発している。代表的なものを取り上げる。	2016/12/27				
	14							
おわりに	15	その他のモデル BMD まとめ	動物実験データからNOAEL相当の影響量を統計的に推定する手法であるBMD(Benchmark Dose)法が注目を浴びている。ここ数年の発がん性と非発がん性の評価を統一しようという動きの中で重要な役割を占める。原理と簡単な事例を紹介する。最後に、作業員暴露評価のありかたをまとめて議論する。	2017/1/10				
	16							

2016年度後期

知の市場(シラバス)

新規

科目No.	共催講座UT117	科目名	化学物質有害性評価				副題	初心者のための基礎から学ぶ病理学的評価			
連携機関名	化学物質リスク評価研究所	水準	中級	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	金曜日13:10~17:10 (3講義集中)	拠点 (開講機関)	東京・放送大学文京学習センター (東京知の市場・放送大学(協賛))
科目概要(300字)	2006年の国際化学物質管理会議では、「国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ」(SAIGM)を採択し、全世界的に「2020年までに化学物質が健康や環境への影響を最小とする方法で使用・生産されるようにすること」を目指している。このような流れの中で、化学物質のヒト有害性を正しく理解しておくことは、製造者責任として必須となっている。その観点から反復投与毒性試験を理解するために鍵となる病理組織学について、初心者でも理解出来るように解説する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字以内)	講義日	開講場所	取組め者	講師	所属
はじめに	1	オリエンテーション	化学物質規制の社会的背景や最近のトピックスとしてジクロロプロパンによる胆管癌発症と労安法改正など概観しながら、講座の具体的進め方について紹介する。	2016/10/7				
	2	総論	基礎的理解として反復投与毒性に係る動物実験法や人体の構造と障害などについて概説する。					
	3							
病理学の実際	4	肝臓 I	経口投与により胃に入った化学物質の大部分は門脈系を介して肝臓に取り込まれる。肝臓での解毒・代謝の過程における肝細胞障害とそれに伴うバイオマーカの変化について考察する。 具 体的病理所見としては、腫大、淡明化、好酸性、好塩基性変化、炎症性細胞浸潤、壊死、肉芽形成、脂肪沈着などを検証する。	2016/10/21	放送大学 東京文京学 習センター	西川 智	西川 智	化学物質リスク評価研究所
	5							
	6							
	7	肝臓 II	肝細胞以外の肝臓の障害について考察する。 具 体的な病理所見としては、類洞クッパー細胞の変化、髓外造血、ヘモジデリン沈着、そして胆管の変化として胆管増生、炎症性所見などを検証する。	2016/11/11				
	8							
	9							
	10	腎臓 I	輸入細動脈から腎臓系球体に入った化学物質がろ過され更に尿管において再吸収されることによる腎障害とそれに伴うバイオマーカの変化について考察する。 具 体的な病理所見としては、尿管上皮の変化：硝子性・空胞変性、カルシウム沈着、好塩基性変性、壊死、細胞浸潤、円柱果粒などを検証する。	2016/11/25				
	11							
	12							
	13	腎臓 II	尿中に排泄された化学物質による腎臓障害とそれに伴うバイオマーカの変化について、病理所見として腎盂の変化、変性、壊死、炎症、などを検証する。	2016/12/9				
14	膀胱	尿中に排泄された化学物質による膀胱障害とそれに伴うバイオマーカの変化について、病理所見として上皮の過形成などを検証する。						
おわりに	15	総合討論	最近の事件事故などを省みながら有害性評価について論じる。加えて、内外の有害性評価に係わる人材の育成のあり方について論議する。					

科目No.	共催講座CT574a	科目名	法学入門a				副題	実践的考察を通じたリーガルマインドの涵養			
連携機関名	お茶の水女子大学 ライフワールドウオッチセンター	水準	基礎	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	水曜日18:30~20:30	拠点 (開講機関)	東京・お茶の水女子大学 (お茶の水女子大学ライフワールドウオッチセンター)
科目概要(300字)	現代人にとって法律の基礎的素養は不可欠である。本講座は、法学の学習経験のない社会人・学生を原則として想定する。法律の学習に際しては、具体的な状況を想定しつつ、そのなかで基本的な法理を理解しよう試みるのが望ましい。本講座では、個人の生活の各場面での法律関係をとりあげながら、そのなかで基本的な法律(民法、会社法など)の考え方を学ぶという方法を試みる。条文を参照しながら説明するので、受講に際しては六法(小型のもの。最新版でなくてもよい)を携行のこと。なお、講義の順序・内容の一部を変更することがある。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取締め者	講師	所属
はじめに	1	法・法律とは何か	法と法律の概念、社会における規範のなかでの法律の役割、各種の法律の体系、裁判の役割、民事訴訟の仕組みなどについて考察する。	2016/10/5	お茶の水女子大学 共通講義棟 1号館101番 教室	栗原 脩	栗原 脩	弁護士(元日本興業銀行取締役証券部長)
民法	2	民法の概略、物(動産・不動産)	民法の体系、物権と債権の基礎概念、所有と占有などについて説明する。	2016/10/12				
	3	売買	売買の法理、売買契約の基礎、売買と交換などについて説明する。	2016/10/19				
	4	賃貸借・使用貸借	賃貸借と使用貸借の概念、賃貸借契約の基礎、賃貸借を巡る法律問題などについて説明する。	2016/10/26				
	5	借入れと担保	お金の貸し借り(金銭消費貸借契約、利息制限法など)、担保の役割(人的担保、物的担保)、代表的な担保権(質権と抵当権)、譲渡担保などについて説明する。	2016/11/2				
	6	請負・委任・寄託	請負の法理と実際(住宅の建築の例など)、委任の役割と当事者の義務、寄託の法理などについて説明する。	2016/11/9				
	7	契約の法理	各種契約の例を参照しつつ、民法総則の関連部分(意思表示、代理、時効など)、契約に関する法理(契約の成立プロセス、契約の履行、債務不履行、解除など)を考察する。	2016/11/16				
	8	契約の法理(続)、不当利得、不法行為	契約に関する法理の説明に続き、不当利得とは何か、不法行為と損害賠償責任などについて説明する。	2016/11/30				
	会社法	9	株式会社の基礎概念	共同で事業を行う場合の組織形態、株式会社の基本原理とその特徴、株式会社の設立(手続、法人格の取得)などについて考察する。				
10		株式	株式の基本的な仕組みについて説明する。	2016/12/14				
11		株式会社の機関	株主総会、取締役・取締役会、監査役(会)などについて説明する。	2016/12/21				
12		資金調達、組織再編	資金調達(増資、社債発行など)、組織再編(合併、会社分割など)について説明する。	2016/1/11				
金融商品取引法	13	投資と法	金商法の目的、ディスクロージャー制度などについて説明する。	2016/1/18				
	14	投資と法(続)	不公正取引の規制、金融商品取引業者等の規制などについて説明する。	2016/1/25				
労働法	15	会社と個人	会社の従業員(労働者)としての個人、労働法の意義と体系、労働法における基本的な法理について説明する。	2016/2/1				

科目No.	共催講座CT234	科目名	生物総合評価管理学				副題	農作物の品種改良が世界を救う			
連携機関名	農業・食品産業技術総合研究機構	水準	中級	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	金曜日18:30~20:30	拠点 (開講機関)	東京・お茶の水女子大学 (お茶の水女子大学ライフワールドウオッチセンター)
科目概要(300字)	日常食している農作物や畜産物など、多くの先人たちの努力により改良され生産性を向上してきた。近年、多様な生物の全塩基配列の解読や分子生物学的研究の著しい進展を踏まえ、遺伝子組換え技術などを駆使した新たな農作物などの開発や利用が進みつつある。またカイコも絹生産に留まらず、組換えカイコによる有用物質生産など新産業創出の可能性を示すなど新たな局面を迎えている。農作物の品種改良が食料生産に果たした役割を俯瞰しながら、植物の品種改良が将来的に人類が直面するであろう食料不足や環境問題の解決の切り札になる可能性を、最新の研究内容を通して紹介する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字以内)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属	
品種改良の歴史	1	農耕の起源と品種改良の歴史	人類は2万年ほど前から定住生活をはじめ、約1万年前より作物の栽培を始めた。農耕の起源を考えながら、品種改良にまつわる様々なエピソードを交えて、品種改良の歴史を俯瞰する。また、本講座のオリエンテーションとして、基本的な遺伝学と本講義の全体について紹介する。	2016/9/30	お茶の水女子大学 共通講義棟 1号館101番 教室	田部井豊	田部井豊	農業・食品産業技術総合研究機構	
	2	国内在来種の保存と利用	人々は在来の作物を栽培し、それをもとに品種改良を行ってきた。在来種の多様性とその利用の歴史について概説する。	2016/10/7			大澤良	筑波大学	
遺伝子組換え	3	遺伝子組換え技術と世界的な利用状況	遺伝子組換え技術の誕生と植物への利用について紹介するとともに、現在、世界的に栽培されている遺伝子組換えの作物の実際や、遺伝子組換えパパイヤやゴールデンライスの開発について紹介する。	2016/10/14			田部井豊	農業・食品産業技術総合研究機構	
	4	遺伝子組換え生物の安全性評価と国際的動向	遺伝子組換え農作物の商品化には厳しい安全性審査が求められており、その安全性評価システムについて解説する。今後、遺伝子組換え農作物を利用するために非組換え農作物との共存と消費者の理解が必要である。共存とサイエンスコミュニケーションについて紹介する。	2016/10/21			奥崎文子	玉川大学	
	5	葉緑体形質転換の可能性	葉緑体形質転換ゲノムへの遺伝子導入には、核への遺伝子導入とは異なるメリットとデメリットがある。メリットとしては大量のタンパク質を作れる優秀な植物工場として利用できることである。そのメカニズムとともに今後の利用について概説する。	2016/10/28			田中淳一	農業・食品産業技術総合研究機構	
新しい育種技術	6	循環選抜とゲノム選抜が切り開く未来	未だにトウモロコシの反収は増加している。その主な理由はトウモロコシは他殖性(他の株の花粉で種子が稔る性質)であり、常にゲノムがシャッフルされているためであると考えられる。それを自殖性作物のイネに応用すること、ゲノム情報で優秀な系統を選ぶ選抜方法について紹介する。	2016/11/4			津田麻衣	筑波大学	
ゲノム研究	7	ダイズ育種の世界を変える	ダイズの品種改良においても、急速にゲノム情報の利用が進められている。統計的手法を用いたシミュレーションに基づくダイズ育種の方法とその成果について紹介する。	2016/11/18			小長谷賢一	林木育種センター	
新しい育種技術	8	無花粉スギを作る	スギ花粉症問題解決のために、無花粉スギの選抜と遺伝子組換え技術による無花粉スギの作出について述べるとともに、これまでに林業分野における問題とその取組みを概説する。	2016/11/25			田部井豊	田部井豊	河本夏雄
遺伝子組換え	9	スギ花粉症を治すコメを作る	コメを食べて「スギ花粉症を治す」。花粉症患者の方には夢のような話を、そのメカニズムや実際に症状が軽くなった人の話を交えて紹介する。また植物の形をした薬はどのようにして実用化されようとしているのか…その一部を紹介する。	2016/12/2			志村幸子		
	10	遺伝子組換えカイコの開発と実用化に向けて	2000年にカイコの遺伝子組換え技術が開発されて15年、すでに医薬品開発に利用されており、さらに緑色蛍光タンパク質などを発現する遺伝子組換えカイコの産業が迫っている。これまでのカイコ育種の成果と遺伝子組換えカイコの開発や一般養蚕農家で利用するための規制対応について概説する。	2016/12/9			田部井豊	農業・食品産業技術総合研究機構	
機能解明	11	ネムリユスリカの乾燥耐性とその応用	ネムリユスリカは凄い。乾燥耐性や放射線などの耐性は他の生物では見られないほど強い。そのメカニズムを紹介するとともに、利用について概説する。	2016/12/16			田部井豊		
遺伝子組換え	12	機能性農作物の開発と商業利用へ向けた課題	遺伝子組換え技術を用いることにより、血圧を低く抑えることのできるコメや糖尿病対策のコメ、ワクチンを作る植物など従来の育種では実現できなかった機能性を付与できる。機能性を有する遺伝子組換え農作物の研究の現状を紹介し、将来の可能性について考える。	2017/1/6			田部井豊		
新しい育種技術	13	新しい育種技術の紹介と研究及び実用化への取組	新しい育種技術には、ゲノム編集、シズジェネシス、世代促進技術など多くの技術が含まれた総称となっている。主要な技術について解説し、それによって何が作り出され、私たちの暮らしにどのように役立つかを概説する。	2017/1/13			田部井豊		
	14	新しい育種技術(NPBT)の規制問題を考える	ゲノム編集や世代促進技術など、植物におけるNPBTは人工制限酵素遺伝子や開花促進遺伝子などを導入し、目的の改変が終了したところで、導入された遺伝子を除いて商業利用する。この外来遺伝子が除かれた植物はGMOか非GMOか? 世界的な議論を紹介しながら、規制の問題を考える。	2017/1/20			田部井豊		
これからの育種	15	世界が直面している問題に品種改良はどのように答えるか	世界的な「気候変動」による新たな病害虫の発生は、今後の農業生産上、最も憂慮され対応しなければならない問題である。今後の農業生産の基本的な問題を概観しながら、今後の品種改良を考える。	2017/1/27			田部井豊		

科目No.	共催講座 YB612b	科目名	狭山を学ぶ ものづくり編b				副題	グローバルブランドを目指す狭山茶の全てを学ぶ			
連携機関名	狭山商工会議所・狭山市 狭山市茶業協会	水準	中級	教室定員	40名	配信定員	0名	講義日時	火曜日18:30~20:30 実習(講義2・3・8・9)は土曜日 13:30~16:30	拠点 (開講機関)	埼玉・狭山 (狭山商工会議所・狭山市)
科目概要(300字)	狭山市は有名なブランドである「狭山茶」の産地である。狭山茶は狭山丘陵で栽培・生産されるお茶の総称で、江戸時代にはすでに江戸でブランド化されており、当時狭山はお茶の生産地域の北限でもあった。狭山市が市政を引くはるか昔から「狭山」という名前を使い、ブランド化してきた狭山茶の魅力を、その歴史と効能から説き起こす。そして、いま生産者を中心に取り組まれている課題や将来への「夢」を示し、現在の狭山茶の姿を明らかにする。これによって、より多くの人々が「狭山茶」を再認識し、今後の狭山茶のブランド力強化につながる。昔は「薬」であった「お茶」を深く良く認識する機会を提供する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取組め者	講師	所属
開講式	1	開講式・狭山とお茶	開講式。古来お茶は中国から伝えられ、江戸時代は関東圏がその栽培の北限とされてきた。狭山市はその地域に位置し、古くからお茶の栽培が盛んで、「市」としての名称も昭和29年に市制を引いた時に「狭山市」とした。「狭山茶」を歴史的にとらえ、また、現在の産業として、さらに未来に向けての取り組みを本コースで学んでいく。	2016/9/27	狭山市産業労働センター 1階多目的スペース		(未定)	狭山市
体験・狭山茶生産1	2	狭山茶はこうして作られる 1	茶業者の持つ1次産業としての「茶畑」、そこからの収穫後に、いろいろな加工を施す(2次産業)ことにより、お茶の付加価値を上げ、また、性格を変えてゆく。それら一連の流れを学ぶとともに、お茶の製造現場の取組を見学し、生産体験を行う。特に前半の体験は、生産現場である茶畑を視察・考察し、さらに、受講者が自ら茶葉の収穫を体験し、お茶の産業の第1次部分を体験する。	2016/10/1	実習会場: 横田園		横田泰宏	東阜横田園代表
	3	狭山茶はこうして作られる 2					横田貴弘	東阜横田園
狭山茶の歴史と効能	4	狭山茶の歴史 1	中国から伝来したといわれる茶が、中世から近世にかけてどのように日本国内に広まっていったのかを振り返りながら、江戸時代後期に誕生した狭山茶について学ぶ。	2016/10/4	狭山市産業労働センター 1階多目的スペース		高橋光昭	前狭山市博物館館長
	5	狭山茶の歴史 2	開国とともに急速に発達した狭山茶の生産について触れるとともに、紅茶やコーヒーの登場で国内消費に移行していった経過、機械化への取り組み、霜害に強い品種の登場などについて学ぶ。	2016/10/11				
	6	お茶から始まる和食の文化と健康づくり	日本の伝統的な食文化、和食は、世界の無形遺産として登録されるなど再認識されてきた。食文化のルーツを知り、科学的見地から食品の機能(人体に対する食品の作用や働き、栄養機能、健康性・生体調整機能、嗜好・食感機能)の内、お茶から始まる和食の色彩・香り・食感を中心に和食の素晴らしさと、お茶の存在意義を検証し健康づくりに活用する。	2016/10/18			長谷川秀夫	分析産業人ネット 委員
	7	お茶の効能と文化	「お茶」の食品としての効能や効果、そしてお茶を中心とする文化的活動などを講義する。	2016/10/25			大森正司	大妻女子大学 教授
体験・狭山茶生産2	8	狭山茶はこうして作られる 3	農産物であり生き物である「お茶」の知識を本コースで学んできた。それらを踏まえ実践としてお茶の生産を体験し、さらに、生き物である「お茶」のポテンシャルを発揮させ、美味しいお茶を楽しむためのルールを学び実践する。この後半の体験は、収穫後の茶葉をいかに加工するか、長い歴史の中で培われてきた加工の仕方により、茶葉の性格を変え付加価値をいかに付けるかを体験する。さらに、つくられたお茶の選び方や、より良い楽しみ方を体験する。	2016/10/29	実習会場: 横田園	狭山市産業労働センター 栗原博文 神部圭子	横田泰宏	東阜横田園代表
	9	狭山茶をさらにおいしく楽しむために					横田貴弘	東阜横田園
現在の狭山茶生産とその課題	10	狭山地域から世界へ	狭山丘陵で生産される「お茶」=「狭山茶」を生産販売する事業者として取り組む「狭山茶」作りと、アメリカ市場を見た生産者として感じた「世界の中の狭山茶」の可能性を語る。	2016/11/1			平岡忠仁	平岡園
	11	良い素材をよい製品に	お茶は第1次産業から第3次産業まで一貫した流れを持つが、製品としてのポテンシャルを決めるのは第1次の素材としての生産段階と、第2次の加工卸の段階の要素が大きい。農産物としての「茶葉」を加工することにより、その特色を発揮し、異なる「お茶」に仕上げていくうえでの技術・工夫や日々の課題を語る。	2016/11/8			石田英希	石田園
	12	良い製品の拡大とブランド構築	同一地域で長い間積み重ねられた技術と工夫で生産され、加工され、製品となった「狭山茶」。長い歴史の中でブランド性を高めるとともにいかに良い商品として地域の人たちや愛好家に流通し、愛飲していただくか。また、さらなる消費拡大のためにいかなる工夫や新商品の開発に取り組むか。主に流通面からの「狭山茶」を語る。	2016/11/15	狭山市産業労働センター 1階多目的スペース		植竹利光	清風園
未来に向けての狭山茶	13	狭山茶と市民のおもてなしの取組	古くからのブランドである「狭山茶」、そして、茶の湯の文化の1つである「おもてなし」、近年の加速度的な国際化と、世界から興味を持たれている日本文化を踏まえながら、狭山市の魅力とおもてなしについて、狭山茶を基軸として創造し、発信していくことを目的に活動している市民団体として、「狭山茶のおもてなし」について皆さんと一緒に考えていくものです。	2016/11/22			中津川人峰	狭山おもてなし計画代表
	14	狭山茶と狭山のブランディング	日本のブランドとしての「日本茶」、世界の中で日本文化の一つである「日本茶」をどのように展開していくべきなのか。狭山市の若手経営者たちが挑むブランディングプロジェクトを紹介する。	2016/11/29			吉田徹弥	狭山商工会議所青年部副会長
まとめ	15	まとめ・未来に向けて	本コースでは地域ブランドである「狭山茶」をいろいろな角度から、多くの人・視点で講義を積み重ねてきたが、このコースを総括して、今後の狭山茶の未来を示唆し、お茶の製品としての可能性や、文化としての可能性を模索する。	2016/12/6			横田泰宏	東阜横田園代表

科目No.	共催講座JK131b	科目名	防疫薬総合管理				副題	身近な生活・環境害虫防除—世界をリードする防疫薬と害虫防除技術—			
連携機関名	日本環境動物昆虫学会	水準	中級	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	月曜日18:15~20:15	拠点 (開講機関)	大阪・千里山 (日本リスクマネージャネットワーク、 後援:関西大学化学生命工学部、日本家庭用殺虫剤工業会)
科目概要(300字)	熱帯病による死者は、近年でも全世界で年間500万人に達している。その最大の原因はマラリアで、その他にウエストナイル熱、日本脳炎、黄熱病、デング熱などがあり、いずれも蚊媒介性疾患である。マラリアによる死者は毎年150万~270万人と報告されており、現在、WHOが中心となってマラリアの死者を半減させる運動を展開している。その手段としては、殺虫剤を家屋内に残留処理することやピレスロイド殺虫剤を含有させた蚊帳などの使用でベクターである蚊を防除することである。一方、都市化が進み、風土病、熱帯病が減少した先進地域では人々の快適な生活を維持するために、不快害虫(nuisance insects)などを防除することが不可欠になっている。これらの防除にはピレスロイドなどの安全な殺虫剤が使用されており、これらの薬剤開発では日本が常に世界をリードしてきた。このような防疫薬・家庭用殺虫剤などについて、社会的役割、薬剤開発、使用技術の改良、安全性の確保および技術革新などについて解説する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
昆虫と人間生活	1	歴史を変えた昆虫たち	昆虫が地球上に現れたのは、約4億年前であり、ヒト(猿人)が誕生したのは、約500万年前といわれる。ヒトは誕生した時から必然的に昆虫類と関わりながら生きてきた。ここでは、昆虫類が歴史上偉大な人物や大きな事件に影響を与えた事例について述べ、昆虫と人間がこれまでにどのように関わってきたかを解説する。	2016/9/12	関西大学 千里山キャンパス 第4学舎 3号館 3202教室	安部 八洲男	安部 八洲男	大阪青山大学 健康科学部
害虫の生態と防除	2	衛生害虫の生態とその防除策	虫が媒介する感染症はいろいろある。日本で最も有名なのは蚊が媒介する日本脳炎であるが、海外旅行すると虫が媒介する感染症にかかるリスクが増大する。近年周辺諸国で流行が見られる虫が媒介する主な感染症を紹介する。	2016/9/26			庄野 美徳	住友化学 生活環境事業部
	3	不快害虫、その他の害虫の生態とその防除	人が生活している環境には衛生害虫以外にもいろいろな害虫がいる。気持ち悪い、臭い、刺されると痛いなどの不快害虫。衣服を食害する衣料害虫など。それから、最近、外国から侵入して来た外来害虫。これらの虫の被害とその対策について紹介する。	2016/10/3			田中 豊一	ダスキン
	4	害虫の生態を利用した駆除	食品衛生害虫の代表としては、飲食店の厨房や一般家庭の台所に出没するゴキブリが挙げられる。また、家屋害虫の代表としては、家屋・建造物などの木質部を食害するシロアリが挙げられる。これらの害虫を中心として、害虫の生態、習性を利用した防除法の考え方や実例を紹介する。	2016/10/17			(未定)	日本家庭用殺虫剤工業会
家庭用殺虫剤	5	家庭用殺虫剤の製剤の特徴と使い方	近年、WHOは感染症媒介害虫の防除にPrimary Health Care (PHC)の重要性を再認識し、推進している。このPHCの中心にある家庭用殺虫剤について、製剤・製品の変遷、並びにそれらの特徴と正しい使い方について概要を述べる。	2016/10/24			森 達哉	住友化学 健康・農業関連事業研究所
殺虫剤の化学	6	防疫薬発展の歴史とその役割	農業(殺虫剤)使用の歴史を概説し、過去における殺虫剤の問題点およびそれを踏まえた殺虫剤(防疫薬)の発展の歴史とその役割について説明する。農業の発明・開発・上市の流れについても解説する。	2016/10/31			竹林 禎浩	住友化学 ベクターコントロール部
	7	世界をリードしたピレスロイド殺虫剤	除虫菊に含まれる殺虫成分(ピレトリン)の安全性を維持しながら構造を改変したピレスロイドは今やベクター(疾病媒介昆虫)コントロールに無くてはならない存在となっている。人類にとってかけがえのないピレスロイドの発明の経緯について化学構造の変換および効力の特徴の観点から説明する。またどのように発明がなされたのかについても解説する。	2016/11/7				
製剤とその利用技術	8	製剤化の意義と家庭用殺虫剤の特徴と使用方法	家庭・防疫薬分野においては、新しい特徴を有する有効成分の発見に伴い、その効能を最大限に発揮するために、今まで各種製剤が提案されてきている。主として殺虫剤における製剤化の意義と、代表的な家庭用殺虫剤に関する基本技術について解説する。	2016/11/14			庄野 美徳	住友化学 生活環境事業部
	9	その他の製剤と新規製剤の特徴と使用方法	家庭・防疫薬分野においては、新しい特徴を有する有効成分の発見に伴い、その効能を最大限に発揮するために、今まで各種製剤が提案されてきている。主として殺虫剤における製剤化の意義と、代表的な家庭用殺虫剤に関する基本技術について解説する。	2016/11/21				
ベクター防除技術	10	世界をリードするオリセットネット(防虫蚊帳)	マラリアはハマダラカという蚊が媒介し、アフリカにおいて貧困の大きな原因となっている。1998年にWHOが中心となり、2010年までにマラリアの脅威を半減することを目的としたロールバックマラリアキャンペーンが開始された。そこでは、防虫蚊帳オリセットネットは感染予防の有力な手段として使用されている。	2016/11/28			藤本いつみ	京都大学 生存圏研究所
木材害虫	11	シロアリ防除	シロアリは真社会的昆虫であり、家屋そのものを食害し大きな経済的・社会的損失をもたらすという、家屋害虫の中でも独特の存在である。そのようなシロアリについて紹介しつつ、その防除方法を解説する。	2016/12/5			池尻 幸雄	イカリ消毒株式会社 技術研究所
害虫防除の実際	12	薬剤による害虫防除の課題とPCO(害虫防除専門家)の取り組み	PCO(Pest control operator,害虫防除専門家)がどのような場面で害虫防除に薬剤による防除を選択し、どのような課題を抱えているのかについて、30年間害虫防除に携わってきた経験をもとに述べる。また、今後どのような薬剤が望まれるのかについてもPCOの立場からのべる。	2016/12/12			尾崎 圭介	住友化学 生活環境事業部
安全性	13	防疫薬の登録	防疫薬の登録について述べる。日本(薬事法、化審法、毒劇法など)をはじめ、米国EPA(FIFRA)やEU(EUBPD)、その他世界各国の防疫薬登録制度について説明する。	2016/12/19				
	14	防疫薬の安全性	登録に必要な安全性評価の考え方、急性毒性、遺伝毒性、刺激性、アレルギー性、亜急性毒性、慢性毒性、発癌性、催奇形性、繁殖毒性、神経毒性などの試験法と評価上の問題点を解説する。	2017/12/26			安部 八洲男	大阪青山大学 健康科学部
総合防除	15	問題点と今後の方向	人々の生活の都市化や、住宅構造、生活様式などの外部環境の変化や、化学物質の安全性に対する意識の増加などから、防疫薬に対するニーズも変化し、それに対応して防疫薬も変革が必要とされる。ここでは、防疫薬が抱えている今日的問題点と今後の方向について考え、総合防除(IPM)の考え方についても述べる。	2017/1/16				

<b>2016年度後期</b>	<b>知の市場(シラバス)</b>	<b>継続</b>
-----------------	-------------------	-----------

科目No.	共催講座JK454	科目名	環境基礎論				副題	市民の環境問題入門			
連携機関名	日本リスクマネージャネットワーク	レベル	基礎	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	火曜日18:15~20:15	拠点 (開講機関)	大阪・千里山 (日本リスクマネージャネットワーク、 後援:関西大学化学学生命工学部)
科目概要(300字)	21世紀は環境の世紀といわれている。それは変わらないと思われてきた地球環境が大きく変化し、危機的ともいえる局面を迎え、人間と環境との係わりを根本から考え直す必要があるというメッセージである。人間は誕生以来、自然に働きかけ、生活に必要なものを手に入れてきた。産業革命以降、科学・技術の急速な発展により、生活は便利で快適になったが、他方で自然破壊や環境汚染が進み、人間を脅かすようになってきた。その象徴が地球温暖化問題である。これから環境問題について学ぼうとする市民や勤労者に、生活の土台となる地球、水、大気、土壌について、また生活を豊かにしてきた化学物質などについて、最新のトピックや身近な関心事も交え、広く環境問題について講義し、共に考える。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取締め者	講師	所属
地球と環境	1	環境問題の歴史	環境問題を考える糸口として、時代の変遷を振り返りながら環境問題の全容を俯瞰し、講義全体を概観する。	2016/9/27	関西大学 千里山キャンパス 第4学舎 3号館 3202教室	宮崎 隆介	石橋 博	日本リスクマネージャネットワーク
	2	宇宙船地球号(1)	環境問題を考える上で基礎になる地球について知るために大気圏、水圏のしくみを解説する。	2016/10/4			宮崎 隆介	
	3	宇宙船地球号(2)	環境問題を考える上で基礎になる地球のしくみのうち、陸圏のしくみについて解説する。また、「生物多様性」とは何か、その重要性と現状を森と木の役割や林野庁の進める「木づかい運動」、「美しい森づくり国民運動」の紹介を通じて解説する。	2016/10/11			宇都 英二	
公害と環境	4	水質汚濁問題	水質汚染の歴史は産業革命にまで遡る。産業の発展と共に川や海が汚れ、人の生活に悪影響を与えてきた。水質汚濁対策の進展で現在では相当改善されてきたがまだ完全ではなく、新しい問題も起きている。水質汚濁問題を日本の状況を中心に、上水道への影響や下水道整備の話を変えて解説する。	2016/10/18			刑部 忠彦	
	5	土壌汚染問題	前半の基礎編では、「土壌汚染対策法」の目的を理解し、その施行状況を概観する。又、「用地及び組織の環境アセスメント:ISO14015」を用いて、事業への影響を決定するプロセスを解説する。次に後半の実践編では、複雑な土壌汚染問題のリスクマネジメントの実践から、その考え方を事例を変えて解説する。	2016/10/25			久保田 俊美 新田 恭司	
	6	大気汚染問題	4大公害裁判の一つ「四日市ぜんそく」から道路環境裁判までの概略と企業・行政の取り組みを述べ、大気汚染の歴史を振り返る。次に環境基準が未達成の「光化学オキシダント」の現状と要因の一つである「越境汚染への取り組み」を紹介する。最近話題の微小粒子状物質(PM2.5)や地球規模の大気汚染への取り組みも紹介する。	2016/11/1			西村 庄司	
	7	廃棄物処理問題	産業廃棄物と一般廃棄物、不法廃棄、焼却場、廃棄物処理場、ダイオキシン問題、住民運動、海外との関係など廃棄物処理問題の全般について行政の対応を踏まえながら歴史と現況について解説する。	2016/11/8			佐古 勇策	
地球温暖化	8	地球温暖化(1)	地球温暖化のもたらす脅威は世界的な共通認識となり、その対策をめぐって国際的な交渉が続けられている。今年12月にはパリで新しい枠組みが決められる予定であり、日本政府も原発再稼働を前提に削減目標を提出する。これらの交渉の共通認識をもたらしたIPCCの報告(第5次評価報告書-AR5)について概説する。	2016/11/15			石橋 博	
	9	地球温暖化(2)	京都議定書を引き継ぐ新しいCO2削減の枠組みが交渉されている。国別の削減量が交渉の焦点になっているが、削減の仕組みについてはすでに京都メカニズム等考えだされており、私たち市民一人一人の取り組みについてもアイデアはある。地球温暖化の現実が待たない状況を迎えている中、地球市民として企業、個人のできることに学ぼう。	2016/11/22			宮崎 隆介	
化学物質と食	10	化学物質のリスク管理	化審法、PRTR制度、REACHなどの社会的な管理の仕組みを解説し、会員の仕事を通して化学物質の環境リスク管理について論じる。	2016/11/29			奥村 勝	
	11	食の安全・安心	食にまつわるリスクとは、生活に最も身近な環境リスクであり、生命に直結する問題でもある。農作物の栽培や家畜の飼育、或いは加工品の製造・開発の段階に始まり、輸送、防疫、保管、購入、更には調理及び摂取の過程に至るまで、極めて広範囲かつ多面的に発生するリスクについて概説し、対処の仕方についても紹介する。	2016/12/6			辻本 晴美	
社会の動き	12	最新の環境技術・環境ビジネスの紹介	豊かな生活を求めて発生させてきた環境問題をクリアするため、環境ビジネスは有望なビジネスとして期待されている。しかし、東日本大震災に続く原発事故は、安全神話と地球温暖化解決の切り札を御旗に原子力発電へ依存を高めてきた日本の環境政策をぐらつかせている。環境技術の果たすべき役割について一緒に考える。	2016/12/13			宇野 健一	
	13	環境法の動き	各講義で出てくる個別法の話をもとめる観点から、主要な環境法の歴史と概要を紹介する。また、日本の法律の歴史的变化と最新の体系、主な国際法規や海外法規の動向についても紹介する。	2016/12/20			牧野 薫	
	14	企業の社会的責任(CSR)	市民の側から企業社会との付き合いを考える視点から企業の社会的責任(CSR)について世界の歴史的背景に触れながら、CS・環境会計・ISO認証取得、CSR報告書など企業の社会的責任(CSR)の現状について解説する。	2017/1/10			古沢 啓一	
まとめ	15	持続可能な社会(循環型社会/低炭素社会)を目指して	持続可能な社会を実現するためには現実の困難な課題が多くある。講義全体のもととして、社会で問題になっている話題を取り上げ、立場の違いをどう乗り越えればいいのか、受講者、講師と一緒に考える。	2017/1/17			宇都 英二	

科目No.	共催講座ZY222n	科目名	動物臨床医学事例研究n				副題	臨床現場に有用な症例検討のあり方2			
連携機関名	動物臨床医学研究所	水準	上級	教室定員	80名	配信定員	0	講義日時	日曜3講義 10:00-11:30、 13:00-14:30、14:40-16:10	拠点 (開講機関)	鳥取・倉吉 (動物臨床医学研究所)
科目概要(300字)	動物医療の中でも伴侶動物医療の近年の発展は目を見張るものがある。しかし、急速な発展の中にはひずみが発生しているのも事実である。医療は生き物的要素があり、急速な変化に対応不能な面もある。この科目では、後期に先がけて臨床獣医学のありようを再考し、原点であるひとつひとつの症例を大事に検証し、そのありようを検討する。受講対象者は獣医師、獣医系大学学生、動物看護師に限る。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属		
消化器	1	猫の黄疸の原因と鑑別	猫における黄疸の原因や病態は様々であり、その鑑別は治療法の検討や予後評価に極めて重要である。黄疸の鑑別にはCBC、血液化学検査、尿検査などの臨床病理学的検査、画像検査、さらには肝生検による細胞診や病理組織検査など多角的な検査がしばしば必要となる。	2016/9/18	伯耆しあわせの郷2F大会議室又は動物臨床医学研究所3Fカンファレンスルーム	山根 剛	小出和欣	井笠動物医療センター・小出動物病院		
症例検討(1)	2	外科的疾患の検討(1)	小動物臨床における疾患を中心に、アドバイザーのもと症例検討を実施する。				高島一昭 他複数名	動物臨床医学研究所		
	3	内科的疾患の検討(1)								
眼科	4	角膜潰瘍の治療	犬の角膜潰瘍では、感染の抑制と涙膜確保は重要である。シルマー検査、フルオレセイン染色、病原体のグラム染色でチェックする。難治性角膜びらん、点状表層性角膜炎は、治療法が異なる。猫はヘルペスウイルスの感染が重視される。潰瘍の薬物治療、コンタクトレンズ、外科治療なども述べたい。	2016/10/30			山形静夫	山形動物病院		
症例検討(2)	5	外科的疾患の検討(2)	小動物臨床における疾患を中心に、アドバイザーのもと症例検討を実施する。						小笠原淳子 他複数名	動物臨床医学研究所
	6	内科的疾患の検討(2)								
動物愛護	7	動物愛護の現状と実践	当財団附属施設アミティエの実践報告と、日本における動物愛護の現状を解説する。	2017/1/15			高島一昭	動物臨床医学研究所		
症例検討(3)	8	外科的疾患の検討(3)	小動物臨床における疾患を中心に、アドバイザーのもと症例検討を実施する。						山根 剛 他複数名	
	9	内科的疾患の検討(3)								
循環器	10	小動物の心疾患	犬および猫の心疾患に対する各種検査、診断、治療法などについて解説を行う。臨床獣医師として最低限知っておきたい知識・技術をわかりやすく解説する。	2017/2/12			山根 剛	動物臨床医学研究所		
症例検討(4)	11	外科的疾患の検討(4)	小動物臨床における疾患を中心に、アドバイザーのもと症例検討を実施する。						水谷雄一郎 他複数名	
	12	内科的疾患の検討(4)								
歯科	13	獣医歯科学の基礎と診断	小動物における歯科治療のための基礎として、歯の発生から萌出、歯と歯周組織の構造、口腔内疾患を診断するための器具、各種検査方法について解説する。	2017/3/26			加藤 郁	加藤どうぶつ病院		
症例検討(5)	14	外科的疾患の検討(4)	小動物臨床における疾患を中心に、アドバイザーのもと症例検討を実施する。						久野由博 他複数名	動物臨床医学研究所
	15	内科的疾患の検討(4)								

科目No.	共催講座PT211d	科目名	感染症総合管理1d				副題	感染症対策-ワクチンを中心にー			
連携機関名	国立感染症研究所	水準	中級	教室定員	35	配信定員	0	講義日時	火曜日18:30~20:30	拠点 (開講機関)	東京・戸山 (国立感染症研究所)
科目概要(300字)	感染症との闘いの為のヒトの生体防御の働き、および感染を予防する為のワクチンの効能、またワクチンの安全がどのように確保されているのかを説明する。又、その中で感染症研究の専門機関、特に国立感染症研究所が果たしている機能についても解説する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
総論	1	感染と宿主免疫	感染(宿主-病原体関係)における宿主免疫応答とその医療応用に関して、病原体に遭遇した場合のヒトの免疫応答の基礎知識やワクチン等免疫介入治療・予防に関する応用面を概説する。	2016/9/6	国立感染症研究所 戸山庁舎 会議室	阿戸 学	阿戸 学	国立感染症研究所 免疫部長
	2	次世代ワクチンの開発	ワクチンが何故効くのかその原理と投与方法の総論と次世代ワクチンの候補として粘膜投与型ワクチン、DNAワクチン等の作用メカニズムと効果、開発状況について紹介する。	2016/9/13			長谷川 秀樹	国立感染症研究所 感染病理部長
	3	感染症の予防とワクチン接種	ワクチンで予防可能疾患の国内及び国外の発生状況、我が国の現行ワクチン接種スケジュール、副反応等を概説し、感染症を予防する時のワクチンの重要性を解説する。	2016/9/20			多屋 馨子	国立感染症研究所 感染症疫学センター室長
	4	生物製剤の品質管理	ワクチンは健康な人を対象に予防目的で接種されるものである。であるがゆえに、有効性のみならず、安全性には特に注意しなければならない。一方、ワクチンは生き物を使って製造、試験しなければならないという特殊性についても紹介する。	2016/9/27			加藤 篤	国立感染症研究所 品質保証・管理部長
	5	薬剤耐性と院内感染	今日、日本の医療現場では院内感染の事例が報告され、大きな社会問題となっている。院内感染の原因となる微生物や院内感染の防止対策について概説する。	2016/10/4			柴山 恵吾	国立感染症研究所 細菌第二部部长
各論	6	インフルエンザワクチン	通常の季節性インフルエンザとパンデミック・インフルエンザに対するワクチンに求められる特性には違いがある。現在我が国および海外で認可されているワクチンと両ワクチンとの関係およびワクチン株選定の過程について紹介する。	2016/10/11			板村 繁之	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス 研究センター室長
	7	血液・体液を介して感染する肝炎ウイルス	血液・体液を介して感染する肝炎ウイルスとしてB型、C型肝炎ウイルスが知られており、慢性肝炎から肝硬変、肝癌の原因となるため大きな問題となっている。これらのウイルスの感染リスクと治療、ワクチンについて概説する。	2016/10/18			加藤 孝宣	国立感染症研究所 ウイルス第二部室長
	8	経口感染する肝炎ウイルス	経口感染する肝炎ウイルスとしてA型、E型肝炎ウイルスが知られており、発展途上国では現在も蔓延しているが、先進国でも時に流行が見られる。また、E型肝炎ウイルスはフタなどにも感染しており、生食等による感染の危険性もある。これらのウイルスの感染リスクと治療、ワクチンについて概説する。	2016/10/25			石井 孝司	国立感染症研究所 ウイルス第二部室長
	9	DPTワクチン	DPT疾患(ジフテリア・破傷風・百日ぜき)の国内および国外の現状とそれら疾患を予防する為に果たしてきたDPTワクチンの役割について概説する。	2016/11/1			蒲池 一成	国立感染症研究所 ウイルス第三部室長
	10	麻疹排除と麻疹ワクチン	麻疹の日本、並びに世界の現状、原因となるウイルスの性状、並びに麻疹ワクチンの開発の歴史、効果等を概説する。また、WHOが進める麻疹排除計画についても説明する。	2016/11/8			駒瀬 勝啓	国立感染症研究所 ウイルス第三部室長
	11	肺炎球菌感染症と肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌は、小児や高齢者に菌血症・髄膜炎などの侵襲性感染症や肺炎、中耳炎等をおこす。肺炎球菌ワクチンには小児用、成人用ワクチンがあるが、これらの特徴や臨床効果について概説する。	2016/11/15			金城 雄樹	国立感染症研究所 真菌部室長
	12	結核	結核とはどういう病気か、起因菌の結核菌の特徴およびBCG接種をはじめとする現在講じられている結核対策を含めて概説する。また、結核菌と近縁な菌によるハンセン病についても触れる。	2016/11/22			田村 敏生	国立感染症研究所 ハンセン病研究センター 室長
	13	水痘等のヘルペスワクチン	水痘・サイトメガロウイルスなどのヘルペス科ウイルスによる各種感染症および我が国で開発された水痘ワクチンの現状とその効用について紹介する。	2016/11/29			西條 政幸	国立感染症研究所 ウイルス第一部部長
	14	世界ポリオ根絶計画とポリオワクチン	WHOを中心にポリオ根絶計画が進められているが、その現状と問題点について、世界的な視点および日本の立場に基づいて解説する。とくに、ポリオ根絶最終段階における、ポリオワクチン戦略にかかわる諸課題について説明する。	2016/12/6			清水 博之	国立感染症研究所 ウイルス第二部室長
	15	ヒトパピローマウイルス	ヒトパピローマウイルス(HPV)は、性行為を介して感染し、子宮頸がんの原因となるウイルスである。近年、欧米にてHPVに対する感染予防ワクチンが開発され、我が国を含む全世界で導入されている現状を紹介する。	2016/12/13			柊元 巖	国立感染症研究所 病原体ゲノム解析研究センター室長

科目No.	共催講座KT724	科目名	韓国学 <sup>a</sup>					副題	韓国の歴史と文化の理解			
連携機関名	東京韓国学校	水準	中級	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	水曜日18:30~20:30	拠点 (開講機関)	東京・東京韓国学校 (東京韓国学校)	
科目概要(300字)	歴史を学ぶ真の目的とは、過去への理解を通じて現在を正しく認識し、明るい未来を築くことにある。歴史に対する正しい認識は、現在の私たちが抱えているさまざまな問題や、これから生起するであろう新たな問題を解決する能力を育み、現在の私たち各々の生を主体的に歩むための道を明確にするであろう。韓国の歴史を、古代国家形成と発展過程の特徴、各時代別の歴史的特性と文化芸術などを中心に追いつながら、近隣諸国がお互いに影響を与え合いながら発展して来た道のりを確認し、その中で特に韓日両国の深い歴史文化的関係を中心に考察しようとする。											

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取組め者	講師	所属
古代韓国の形成と発展および文化芸術	1	古朝鮮の歴史と文化	本講座の意義と韓民族の歴史年表を紹介する。古朝鮮は広く人を利するという「弘益人間」の精神をもとにしている。桓檀古記、三国史記などで明らかにした韓民族の移動経路に生じた様々な歴史と文化を論ずる。	2016.10.19	東京韓国学校	金得永	金得永	東京韓国学校 校長 前京畿教育学会 会長
	2	三国時代の歴史	韓国の古代歴史を日本とのつながりの中で論じる。特に、時代劇ドラマ(太王四神記、朱蒙、善徳女王、大王的の夢等)を通じて古代社会の神話と社会を紹介する。	2016.10.26			諸恵珍	東京韓国学校教師
	3	古代時代の詩文学の変化	制度疲労した朝鮮王朝の排他的支配体制の崩壊と共に、王朝の指導理念であった儒学を背景とする漢詩文学も衰退する。植民地支配の中で抵抗文学の性格を帯びて生み出された西洋近代自由詩を受容した新詩運動と、伝統定型詩である時調の復興運動という韓国の詩文学の新たな二つの潮流を紹介する。	2016.11.03			金一男	日韓詩人文学交流会理事 韓国「時調生活」同人 日本「時調の会」理事
	4	韓国音楽の遺産	上古時代から日韓併合時代までの音楽の流れを把握し、時代別の代表楽器と朝鮮時代における儒教思想をベースにした宮廷音楽と庶民音楽を紹介する。また日本の山形県の民謡、最上川舟唄(もがみがわふなうた)と韓国慶尚道の舟唄(ベッノレ)という二つの仕事歌の共通点を探り、比較しながら論じる。	2016.11.09			裴恩卿	東京韓国学校教師
	5	韓国教育制度の歴史	三国時代から近現代までの教育制度の形成と発展過程を、教育理念「弘益人間」の実現の観点から論じる。	2016.11.16			金得永	東京韓国学校 校長 前京畿教育学会 会長
高麗と朝鮮の形成と移り変わり	6	高麗の建国と東アジアの情勢	王建は松岳の豪族出身で禮成江の豪族勢力と連合し成長を遂げ、後に高麗を建国した。彼は高句麗の後継者を自称し、民心をなだめ、豪族の勢力を懐柔しながら国を強くしていった。10世紀の韓半島の状況は、ある意味現代の東アジアと似通っているといえる。多角的な比較と推論を通して、総合的に中世の入り口を考察する。	2016.11.23	東京韓国学校	金得永	趙亨道	東京韓国学校教師
	7	高麗から朝鮮へ	1392年に高麗の武將李成桂太祖が恭讓王を廃して、翌1393年に中国の明から権知朝鮮国事に封ぜられた。朝鮮の歴史は、国内政治的には、建国から端宗までの王道政治の時代、世祖の王権篡奪から威臣・勲臣が高官をしめる時代、士林派による朋党政治、外戚による勢道政治の区分に分けられるが、包括的に朝鮮近世史の流れを紀伝式で紹介する。	2016.11.30				
	8	韓民族の科学技術	韓民族の悠久の歴史の中で、様々な背景のもとで科学技術が発展した。それは建築、製紙、鋳物、陶器、印刷、武器、火薬などの技術に加え、地理、天文、宇宙、数学などの科学、さらに医学や文字など幅広い分野に渡る。李氏朝鮮までの時代区分に従い、代表的な科学技術を紹介し、歴史的背景や逸話、日本との関係にも触れる。	2016.12.07			洪政國	前東京大教授 在日韓国科学技術者協会顧問
	9	朝鮮の美術	先人たちの暮らしや美意識を反映した石造、山水画、工芸などの朝鮮王朝時代の美術作品を通して、その持ち味と美しさの中に込められた歴史の意味を探る。朝鮮時代以前の美術、朝鮮前中期の美術、美術文化のルネサンスである朝鮮後期の美術を時代の流れに基づき考察する。	2016.12.14			尹ゴウン	
	10	韓国伝統舞踊と演技	韓国舞踊とは、韓国の伝統文化のもとに作られたすべての舞の総称で、宮中、民俗、仮面、意識、創作舞踊に分類される。時代別に舞踊の特徴を考察するとともに、80年代半ばから起きた新舞踊の中から舞い手個人の物語を表現する創作舞踊の生成背景を紹介しつつソングを直接体験する。	2016.12.21			朴景蘭	東京韓国学校教師
	11	「在日」の暮らしや意識の変化と日本の中の現代韓国文化	戦前より日本に定住する朝鮮半島出身者とその子孫、いわゆる「在日韓国人・朝鮮人」の戦後から現在に至る暮らしと意識の変化を論じる。また「韓流ブーム」を契機とした「在日」や「韓国」に対する日本人の意識の変化を、「韓流ブーム」以前と以後を比較しながら検証し、日本の中の現代韓国文化について考察する。	2016.12.28			崔美貴	
	12	近代国家の概念と歴史	排他的な民族主義を基にした歴史認識が人類の平和を脅かす要因になるとの視点から、韓国や日本などの近代民族国家について考える。一つの生産単位として専有権を持つ国家体制が最終的には世界大戦に巻き込まれた事実を考えながら、このような悲劇を繰り返さないためにはどのような視点が必要かを考える。	2017.01.11			宋錫鍾	千葉韓国教育院長
近現代史の変化	13	日韓併合時代の朝鮮近代文学－植民地留学生、尹東柱と李光洙	日本留学を経験した文人たちの中でも韓国で最も愛されている詩人と小説家であり、韓国近代文学を語る時に欠かすことのできない尹東柱と李光洙について、日本での留学生活に焦点を当てながら代表作を紹介する。韓国の中高校生たちが必ず学ぶ二人の代表作を通して、植民地留学生としての彼らの生活や心情に思いを馳せる。	2017.01.18	申玉先	東京韓国学校教師		
	14	韓流と日韓関係の変化－その以前と以後－	時代によって目まぐるしく変わってきた日韓関係の動きを、韓流に焦点を合わせて、その前後の変化に着目しながらまとめる。政治・外交及び文化にまで大きな影響を及ぼしてきた韓流が、これから日韓関係にどのような影響を与えていくのか、近年の動向を探る。	2017.01.25	申景浩	国士舘大学21世紀アジア学部 教授 韓国日本近代学会 会長		
	15	韓日二つの祖国を生きる	在日同胞2世の美術コレクターとして、日本と韓国の美術館にコレクションを寄贈して日韓の架け橋となった浅川伯教と巧兄弟の精神を韓国と日本に伝えるために毎年開催されている清里銀河塾を紹介しながら、分ち合う心伝える。	2017.02.01	河正雄	秀林文化財團理事長 朝鮮大學校名譽美術學博士		